

# 事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

## 1. 基本情報

■事業の担当課	都市整備部都市計画課	■担当係	公園緑地係
■評価事業名称	保存樹木等事務		
■事業開始年度			
■評価事業コード	070400 - 303	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	05 誰もが快適に暮らし続けられるまちづくり	
	■基本施策	01 快適な居住環境の形成	
	■施策	03 緑のまちづくりの推進	
■事業の種類	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務		
■法令等の名称	都市緑地法		
■関連計画の名称	北上市緑の基本計画		
■事業の目的と概要	緑の保全・育成を図ることにより、景観に配慮した良好な都市環境の形成を促進する。保存樹木、泉等指定事務、保存樹木等維持管理補助金の交付		

## 2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成30年度事業計画	平成30年度事業量実績
01	保存樹木等事務	一般	保存樹木維持管理費補助金交付2件、保存木保険加入等	保存樹木維持管理費補助金交付2件、保存木保険加入等

## 3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
直接事業費	73	66	90	91	
人件費	819	375	153	77	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	892	441	243	168	

## 4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	指標の説明
01	保存樹木等の保存率	96.9%(63/65)	98.4%(62/63)	98.3%(61/62)	100.0%(61/61)	保存件数(年度期首指定件数-年度内指定解除件数)÷年度期首指定件数
02	1基当たりコスト	0	0	0	0	フルコスト/看板設置数
03	賠償責任保険加入件数	63件	62件	61件	61件	保存樹木における保険加入件数(指定毎の件数)

# 事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

04	看板設置数	0基	0基	0基	0基	保存樹木に関する看板設置件数
05	1件当たり(加入件数)コスト	14,158円	7,112円	3,983円	2,754円	フルコスト/賠償責任保険加入件数

## 5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

### ■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

### 達成状況の分析

補助金制度を整備しているものの、利用件数が少ない状況であり、緑の保全に向けた取り組みが必要である。

### 問題点・課題等

保存樹木の老化による枯死等が発生しており、継続して保存状況を確認する必要がある。

### 1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

### 2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

### 3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

### 4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

### 5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

### 6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

### 7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

### 8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

### 9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

### 10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

### 11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

### ■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

「北上市みどりの基本計画改定版(H26.3)」において、保存樹木に対する補助制度の継続を挙げており、保存樹木自体の老化が進んでいることから、補助制度PR等の取り組みが必要である。

### ■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了